

総 括

事務局長	落合	広志
事務局付	浅野	史行
〃	増田	伸也
〃	渡邊	義幸

《1 年を振り返って》

平成 26 年度は、障害者権利条約批准を受けた様々な法整備が、実効性を伴うものとするためにも、当事者団体としての、障害者の視点を重視した施策への提言はもとより、協会活動の意義・重要性を啓発取り組みも更なる強化を図る重要な時期にあったことから、次の 6 点を活動方針として掲げた。

1. 『「手話言語法」制定を求める意見書』の請願書採択を求める取り組み
2. 市町村の必須事業とされた手話奉仕員等養成事業の実施拡大への取り組み
3. 「第 43 回関東ろう者体育大会」の開催について
4. 加盟協会や各専門部との連携を深めながら組織の強化を図っていく
5. 会員数の維持と拡大
6. ろう重複障害者の自立と社会参加のための協力

上記方針に関する取り組み内容は下記の通りです。

1. 『「手話言語法」制定を求める意見書』の請願書採択を求める運動は、県協会が中心となり、千通研と県サ連と連携しつつ、総力を挙げての全県的な展開をしました。

当協会加盟団体 3 4 協会が千通研地域班及び地域手話サークルと共に、議会への積極的な働きかけの努力が実り、県内すべての市町村議会で採択されました。更に県議会においても 7 月 4 日に採択されました。

この 100%採択は、全都道府県の中でも 4 番目という早さとなり、新たな法整備に向けて当事者団体を中心とした取り組み提言の重要性を再認識した経験となりました。

2. 障害者総合支援法において手話奉仕員養成事業が市町村の必須事業と位置づけられたことを受け、県内すべての市町村における当該事業実施にかかる要望活動を、平成 25 年度から引き続き進めた結果、一部地域を除いた市町村において手話奉仕員養成事業の公的事業の実現にこぎつけました。

当該事業未実施の 2 市については、養成事業の制度設計・運用の整合性や人材育成にかかる内容の充実を図るためにも、独自の手法に拘泥することなく、厚労省推奨テキストを用い、所定の養成カリキュラムに沿った指導内容への改善を含め、公益事業で養成された実技指導講師の配置など、養成事業そのものの

課題をクリアしていく必要があります。県全域にわたって公益性のある整合性のとれた養成事業の実現をめざして今後も引き続き取り組んでいきたいと思
います。

3. 第43回関東ろう者体育大会については、6競技すべて、千葉市内の会場を使用する方向で競技場の選定、各競技協会（審判団）への挨拶まわりなど準備を進めました。

大会第1日目は雨天となったため、一部の競技については実施が危ぶまれましたが、2日目に試合時間の短縮や試合組み合わせを調整するなど、審判団・競技担当者等との調整を図りながら、実施可能な方法を工夫しながら対応したところ、すべての競技は中止することなく無事に終了することができました。

4. 組織の強化について、当初方針には次の①～⑦の取り組みをしました

- ①地域協会との関係緊密化
- ②行事面における支部・専門部との連携の緊密化
- ③事務局と各専門部・支部との不断の連携
- ④日聴紙、MIMI購読者拡大、普及
- ⑤全国手話研修センター諸事業への協力と後援会会員拡大
- ⑥障害者放送統一機構への協力とCS衛星放送視聴者拡大
- ⑦千通研、県サ連等協力団体との連携・協力の強化

①～⑦から見た組織面については、④、⑥を除いて、おおむね現状維持と
いったところですが、①～③は25年度に比べると少しずつ進展が見られると
いった状況です。④、⑥については、残念ながら前年度に比べて進展できたと
はいえず、今後の課題となっているようです。27年度はこれらの要因を分析し、
弱点強化を図っていきたいと思います。

「第14回手話を考えるフォーラム」は総武支部で実行委員会を結成し、
平成26年9月6日～7日（土・日）の2日間、八千代市の東京成徳大学八千代
キャンパスで開催されました。

記念講演のテーマは「手話通訳事業の新しい制度のあり方」をテーマとして、
平成25年3月末に厚労省から各都道府県・市町村に通知された「モデル要綱」
について、全日本ろうあ連盟副理事長の小中栄一氏に講演をいただきました。

「第34回耳の日まつり」は平成27年3月1日（日）に流山市文化会館で開
催され、葛北支部と流山市デフ協会を中心に実行委員会を結成して準備を進め
ました。メインの企画は、ドキュメンタリー映画監督の今村彩子氏を講師にお

招きして、映画「五目ごはん」の製作に当たったのエピソードなど、感動的なお話しをいただきました。

サブ企画として、地元・流山市の特色を生かした3つのアトラクションが上演されました。

なお、第一部で行われた東京手話通訳者等派遣センター事務局長の高岡正氏による「『モデル要綱』厚生労働省通知の社会背景は・・・」のミニ講演は、具体的にわかりやすく非常に勉強になりました。

5. 平成26年度の県協会会員数が25年度に比べて減少したことについては、活動運営委員全体での取り組みが十分でなかったことが原因と思われます。

一方では会員数が増加している地域協会もあったことから、会員継続や新規会員入会には、地域協会の取組み次第によって強く影響されていることが見て取れます。

27年度は、組織部が中心となって、県や支部行事、市行事等で参加者への「入会の声かけ」を行うとともに、会員活動の仕組みなどについてPRするなど積極的にやりたいと思います。

6. グループホームの「らいおんホームそが」が7月1日にオープンし、現在、4名の利用者が入所されています。このグループホームには、聴覚障害者やろう重複障害者を対象にしたバリアフリーの工夫がなされ、恐らく全国でもトップクラスの設備を誇るろう重複グループホームであろうとの声が出ているほどです。次は「生活介護事業所」の設置であり、この建設費に必要な資金造成として街頭カンパや募金カンパなどの取組みを行いましたが、各支部によっては取組みに差があり、課題が残されています。

重度のろう重複障害をもつ仲間のためにも、27年度は年間1千万円の資金造成を目指して頑張りたいと思います。

また、青年部創立45周年記念パーティーの開催を検討しましたが、準備が整わず実施できませんでした。

《活動報告》

●活動運営委員会（定例6回）（主な議題のみ記載）

4/12：第1回

【議題】

- ・H25年度活動報告
- ・H26年度各部企画について

（なるほど研修会、高齢部社会見学、青年部1泊研修会、

女性部手芸講座、ふくろうの部屋)

- ・ H25年度行事報告

5/11 : 第2回

【議題】

- ・ 会員代表者会議 & 会員総会会議資料について
- ・ 義務研修会について
- ・ 手話を考えるフォーラムについて
- ・ 「手話言語法」制定に係る請願運動について
- ・ 第38回関東ろう者大会について
- ・ 第43回関東ろう者体育大会について

7/27 : 第3回

【議題】

- ・ 各部からの企画議案・活動報告
- ・ 第38回関東ろう者大会について
- ・ 第43回関東ろう者体育大会について
- ・ 第33、34回耳の日まつりについて
- ・ 35回耳の日まつり & 創立70周年記念大会について
- ・ 義務研修会について
- ・ 法人理事、評議員会について

10/5 : 第4回

【議題】

- ・ 組織部 : 支部懇談会
- ・ 教育部 : ろう教育を考えるフォーラム
- ・ 企画部 : 千葉県聴覚障害者団体対抗ソフトボール大会
耳の日まつり
- ・ 高齢部 : 日帰り社会見学
- ・ 青年部 : 手話による絵本読み聞かせワークショップ
青年部45周年記念パーティ
- ・ 芸術文化部 : ふくろうの部屋
- ・ 中央支部 : 講演会
- ・ 総武支部 : ボウリング交流会、講演会
- ・ 葛北支部 : 社会見学 & バーベキュー
- ・ 東総支部 : 社会見学
- ・ 南総支部 : 講演会 & 忘年会 / 親睦旅行
- ・ 事務局 : 会費減免分返金の方法について

【報告】

- ・ 組織部：県協会会員数（会費値上げ影響による）
- ・ 事務局：義務研修会、県協会会員数、手話言語法請願運動状況、耳の日まつり、ろう重複障害者施設をつくる会、全国手話研修センター後援会、手話通訳者等申請書

12/1：第5回

【議題】

- ・ H27 年度年間事業計画案・活動方針案について
- ・ 3 大企画スケジュール調整について
- ・ 総会日程調整について
- ・ 連盟への要望について
- ・ 会員拡大について
- ・ 耳の日まつりスローガンについて

【報告】

- ・ 総武支部活動報告について
- ・ 葛北支部活動報告について
- ・ 全国手話研修センター後援会について

2/1：第6回

【議題】

- ・ 第 34 回耳の日まつり
 - ①式典等の担当分担案について
- ・ 第 35 回耳の日まつり
 - ①企画案について
 - ②アトラクション企画案について
- ・ 平成 27 年度活動方針案
- ・ 白井市協会設立について
- ・ ろうあ労働問題講演会について & 相談員研修会について
- ・ 女性部講演会について
- ・ 中央支部講演会について

【報告】

- ・ 県協会会員数について
- ・ 専門部、支部総会等日程について
- ・ ワークショップ（青年部）について
- ・ 全日本ろうあ連盟への提案・意見について

●会員代表者会議&会員総会

- ・ 6/1(平成 26 度活動報告・決算報告)
- ・ 3/15(平成 27 度活動方針・予算案)

●なるほど研修会

7/1 船橋市浜町公民館講堂

- ・講演会「ろうあ運動の専門組織における課題」
講師：高塚 稔氏
- ・組織について
- ・第 65 回評議員会の報告

●支部長懇談会

11/13：議題

- ・会員拡大について
- ・全国手話研修センター後援会について
- ・ろう重複障害者施設をつくる会について
- ・広域協会、市町村協会発足について
- ・自立支援協議会アンケート集計について
- ・意思疎通支援事業モデル実施要項について
- ・手話通訳奉仕員養成講座市町村実施状況について
- ・三大企画スケジュール調整について
- ・義務研修会について
- ・市協会・支部・専門部
- ・各市協会定期総会資料等提供について 等

●3 団体会議（千通研＋県サ連＋活動運営委員会）

平成26年	5月21日	千葉聴覚障害者センター
平成26年	7月3日	千葉聴覚障害者センター
平成26年	10月9日	千葉聴覚障害者センター
平成27年	1月30日	千葉聴覚障害者センター
平成27年	2月12日	千葉聴覚障害者センター
平成27年	3月11日	千葉聴覚障害者センター

●2 団体会議（千通研＋活動運営委員会）

平成26年 7月22日 千葉聴覚障害者センター

●以上のほか、必要に応じて随時ヒアリングや会計関連の会議を開いた。